

令和4年度 自己評価表（最終評価）

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。	今年度の重点目標	1 人間性や社会性の向上
中長期目標	1 道徳教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上		2 チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実 3 学びの深化と主体的学びの構築 4 情報発信の更なる充実 5 働き方改革の推進

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

年度当初					評価結果(2月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間性や社会性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人や集団の間に存在している様々な「違い」の理解度を深める。</li> <li>○「人との関わり」や「出会い」を大切にしていくなことで、豊かな心を育成し、主体性を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりをもって人と接することができる生徒が多いが、自分本位で物事を考えた言動をする場面もある。</li> <li>○校外での活動機会や講演の機会が限られており、新たな出会いを設定することが限定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○存在する違いを良く理解し、積極的に自分のまわりの人たちのために行動することができる。また、人の思いに共感することができる。</li> <li>○様々な場面で「人との関わり」や「出会い」を大切にする心が育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームルーム活動をはじめとする様々な教育活動を通して、様々な立場で物事を考える場面を設定し、思いやりをもち相手軸で考える行動ができるようにする。</li> <li>○ボランティア活動や講演会、校外研修などを通して、新たな出会いの場面を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動や学校祭、中学生体験入学などで生徒が主体的に運営しており、全体を見て行動する生徒が育成されつつある。</li> <li>○ステージ1を中心に参加できうるボランティア活動等に参加し、地域の為に自分を役立て異なった年齢層の人たちと関わることができている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会運営にPDCAサイクルを導入し、生徒自らが現状分析及び課題解決方策について検討していく。</li> <li>○引き続き、目的や意図を明確にした上で、生徒自身が運営する活動や校外での活動機会を増やし、新たな出会いの場面を設ける。</li> </ul>
チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域を支える、貢献に資する人材を育成する」高校として、倉吉市や地元大学等と連携しながら、「ふるさとキャリア教育」を推進する。</li> <li>○他校生との交流を通して、インプットする場面やアウトプットする場面を経験することで、自らの視野や選択肢の拡大につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や地元大学等との連携の場が少なく、地域理解・課題解決への取組は十分とは言えない。</li> <li>○若者地域づくり交流会や日本女性会議プレイベントなど、校外でのイベントやシンポジウム等に参加し、探究につながる活動をする生徒が出てきているが、拡がり十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や地元大学との連携により、地域理解が進み、課題解決への取組等を積極的に探究しようとする生徒が増加している。</li> <li>○校外でのイベントやシンポジウムに積極的に参加することで、自らの視野や選択肢が広がり、将来の学びや生き方について考える生徒が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地元自治体や地元大学の協力を仰ぎながら、講演会や施設・企業訪問等の機会をとらえ、生徒が地域や社会について理解を深め、視野を広げる活動を推進する。</li> <li>○生徒、教職員の連携を密にし、シンポジウム等への参加を成長の場面ととらえ、応募・参加を呼びかけるとともに、必要な支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校外活動や社会人講師活用事業を生かした外部との連携が進み、社会や地域について理解が深まった。</li> <li>○日本女性会議や未来構想キャンプなど、校外でのイベントやシンポジウム等に参加する生徒が増加しており、校外でのイベントなどを自ら探し積極的に参加していく姿勢が今後も求められる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フィールドワークや講演会など活動を通して、地域の課題に気づく機会を創出する。</li> <li>○地域貢献・地域との連携も考えたチャレンジグループ計画を設定し、校外での活動への参加の声掛けを行うとともに、教職員間の連携を密にする。</li> </ul>
学びの深化と主体的学びの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館を積極的に活用し、課題解決能力の育成に向けた学びを深める。</li> <li>○ICTの効果的な活用をさらに進め、生徒の主体的学びにつなげる授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○貸出冊数・授業利用時間共に減少しており、図書館の計画的・継続的な利用には至っていない。</li> <li>○ICT機器を活用した授業が定着しつつあり、授業内で生徒が積極的に活用する姿が見られるが、主体的な学びや学力の定着には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業や総合的な探究の時間等で、図書館を計画的・継続的に活用することで、生徒が図書室を主体的な学びの場として活用している。</li> <li>○生徒がICTを積極的に活用し、主体的な学習者へと変容している。</li> <li>○Chromebookを利用した学びを、全ての教科、総合的な探究の時間で行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館からの情報発信や様々な企画等により、積極的な活用を促していく。</li> <li>○ICTを活用した校内研究授業を行い、活用方法の共有や研修を進めていく。</li> <li>○日常的な連絡においてもChromebookを活用し、それを授業活用に繋げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館からの情報提供により新書貸出の増加や授業での図書館活用の機会はあるが、自主的、積極的に図書館を活用する生徒は少ない。</li> <li>○SHRや教員間連絡、学力ポートフォリオの活用など、ICTを活用した効果的な場面は増加している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、図書館やICTを活用した学習や情報提供を行うと共に、レポート作成などの場面での活用を通して、生徒の計画的、主体的な学びにつなげる。</li> <li>○課題提出などの場面を含め、生徒が学習に対してICTを効果的に活用できる取組を今後も推進する。</li> </ul>
情報発信の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページやインスタグラム等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な情報を随時ホームページやインスタグラムで発信できているが、更新されていない部活動情報もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各ステージ、各グループ、各部活動の情報が時機を逃さず積極的に配信されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各ステージ、各グループ、各部活動で行事、大会毎にホームページを更新する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Classroom やマチコミメールによる直接的な情報提供は充実しており、ホームページやインスタグラムによる情報発信を積極的に行っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、日常的な生徒の様子等について時機を逃さず、情報発信に努める。</li> </ul>
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「前例踏襲」を廃止し、「記録」をもとに業務を行い、「よりよいもの」へと更新していく。</li> <li>○時間外業務時間を更に削減していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諸活動の見直し・変革期にあたり、前年度の活動をそのまま踏襲すること自体が困難な状況にもある。</li> <li>○会議の精選及び実施回数の精選により、時間外業務削減につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「記録」をもとに業務内容等の修正が習慣化されており、次年度の改善すべき点が明確になっている。</li> <li>○業務の偏りがなく、すべての教職員の時間外業務時間が減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「記録」をもとに業務の改善点を明確にし、業務内容の改善や時間短縮につなげる。</li> <li>○Chromebook と Google のアプリを用いて、記録の整理を行い、各活動がより良くなるための議論に時間を費やせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できるだけ「記録」を残すようにつとめているが、今後の業務内容の見直しにつながるよう総括的なことを行う必要は残されている。</li> <li>○Chromebook を活用し、朝の打ち合わせの記録・整理は行っている。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共有フォルダ内のファイルを整理するとともに、業務分担の再構築を行う。</li> <li>○今後の業務改善につながるよう、改善の視点で「記録」を残すこと、情報の積み上げに努める。</li> </ul>